

タテ線譜メソッドとは何か - II

—シニア世代から小学生まで広がったメソッド実践報告—

企画・構成・コメンテーター：阿方 俊（昭和音楽大学付属音楽・バレエ教室）

アドバイザー：和智 正忠（医学・音楽研究者）

司会：内田 智子（昭和音楽大学付属音楽・バレエ教室） * 司会者が体調悪く阿方 俊が代行

書記：坂 利美（元ヤマハ音楽教育システム講師）／文責

1. 司会者あいさつと参加者自己紹介

昨年度はラウンドテーブルシリーズ-I として、タテ

線譜に関する多様な分野の人たちとの情報交換が行われた。今年度はタテ線譜メソッドの実践に関わる「指

導する立場」「受講する立場」の人たちを中心に「第三者の立場」の人たちの意見も取り入れてこのメソッドの更なる可能性を考えて行きたい。

司会者あいさつに続き自己紹介がラウンドテーブル（正確にはロの字型）の着席順に行われた。

- ・阿方 俊（昭和音大付属音楽・バレエ教室講師）
- ・和智 正忠（医学・音楽研究者/アドバイザー）
- ・坂 利美（元ヤマハ音楽教育システム講師/書記）
- ・垣浪 文美香（東京学芸大学附属小学校教諭）
- ・嵯峨山 茂樹（明治大学教授、東京大学名誉教授）
- ・小澤 真弓（NPO 法人歌のボランティア主宰）
- ・三枝 文夫（株式会社コルグ）
- ・井原 正史（ローランド株式会社）
- ・森 春潮（ミュージックトレード）
- ・安武 秀（平成音楽大学）
- ・北川 暁子（ピアニスト・音舞会理事長）
- ・小林 玲子（昭和タテ線譜メソッド講座 受講生）
- ・松沢 和枝（昭和タテ線譜メソッド講座 受講生）
- ・秋谷 万里子（和光楽器大宮店講師）
- ・星野 博（昭和タテ線譜メソッド講座 受講生）
- ・高橋 範男（昭和タテ線譜メソッド講座 受講生）
- ・坂井 康二（厚木市いきいきサポーター）
- ・石橋 啓子（元昭和音大生涯学習担当）
- ・古田 政伸（横浜アオバ楽器）
- ・粕渕 博子（jet 会員 音楽療育）
- ・中山 京子（jet 会員 音楽教室主催）

2. 齋藤 康之（木更津高専）

齋藤会員は、タテ線譜を五線譜から自動変換システムを研究しており、音楽情報学会などでも発表している。同時に同高専でいろいろな形でタテ線譜の指導効果についての研究も行っている。ビデオ参加

テーマ：タテ線譜と Eurydice を用いたピアノの初心者向け演奏システム—木更津高専オープンキャンパスでの適用—

と き：2016年 10月 1日

と ころ：木更津工業高等専門学校

参加者：17名（中学生 11名、小学生 4名、木更津高専卒業生 1名、保護者 1名）

使用曲：チューリップ

指導・アドバイス：齋藤康之

内 容：パワーポイントを使い以下が説明された。

- ・五線譜についてのコンセンサス
- ・タテ線譜と記譜法の概要
- ・小中学生の映像による演奏例
- ・タテ線譜「チューリップ」の適用結果
- ・まとめ *パワーポイント

まとめ

タテ線譜と自動伴奏システム Eurydice を用いたピアノ初心者向けの練習システムを若年層に適用

■来場者の全てが演奏に挑戦

- ・昨年の五線譜に比べて、多数の人が実際に演奏
- ・タテ線譜の場合は、演奏に対する心理的距離が短縮

■すべての演奏者が最後まで演奏

■たどたどしく、アドバイスが必要な場合がありつつも、演奏できたという達成感があり、演奏後に笑顔

■はじめて見たタテ線譜をきちんと読譜

- ・練習なしでも、ほぼ正しい運指で演奏。タテ線譜の理解の容易さ

■多くの体験者が、弾き始めてからは、フレーズの開始位置の確認以外は、ほとんど鍵盤を見ないで演奏

- ・指の触覚の感覚で鍵盤の位置を把握。全体的に円滑に演奏

なお、今後の課題として次のものが挙げられた。

- ① 教育現場・医療現場での活用と検証
- ② 運指の正しさの確認
- ③ 音楽ゲームの開発
- ④ タテ線譜そのものの改良
- ⑤

この発表は、小中学生を対象としたタテ線譜とユリディスデイスの活用による相乗効果が発表されたものとして意義深いものである。

以下、ユリディス開発者の嵯峨山先生のコメント。

“ここで使用されている（ユリディス/Eurydice）は、右手タテ線+自動伴奏を組み合わせているもので（弾いている人はどこを弾いているつもりか）を推定するシステムです。このビデオを見て、新メソッドが出来るのではないかと期待している。

3. タテ線譜メソッド講座受講生の現状報告

昭和音楽大学付属音楽・バレエ教室タテ線譜による「楽しく鍵盤楽器を弾こう」の現状。以下、各自の

演奏録画とコメントおよび Q&A

- ・松沢 和枝
経験は 2 年未満。ジブリ「天空の城ラピュタ」より「君を載せて」の弾き歌いを紹介
- ・小林 玲子
五線譜への移行とエレクトーン体験。「モーツァルトの子守歌」をオルガンの音色で弾き歌い
- ・高橋 範男
傘寿を超えて鍵盤楽器へのチャレンジ。「ねこふんじゃった」の演奏紹介
- ・星野 博
タテ線譜講座入会して 2 ヶ月目でタテ線譜簡易編曲
版「エリーゼのために」にチャレンジ。クラスメイトに驚きを与え指導者にも目からうろこ
- ・鈴木 フジ子 *風邪のため DVD 参加
86 歳という高齢もあって、5 指による演奏に困難。人差し指だけで演奏する一本指奏法の楽しさを紹介
- ・三澤 クミ子 *DVD 参加
誕生会に孫が集まった時タテ線譜を説明したところすぐに弾けた。以後、タテ線譜で歌うのが定番化
- ・坂井 康二
百歳を超えた人や視力を失った人でも、歌を歌える。老人ホームで CP 伴奏による音楽療法を実践

4. タテ線譜メソッド指導者現状報告

- ・秋谷 万里子
ヤマハの特約店音楽教室でシニア対象タテ線譜講座および個人レッスンを展開。「秋谷方式タテ線譜記譜法」などの試みを実践中。詳細、研究発表③
- ・垣浪 文美香
昨年に引き続き、タテ線譜による鍵盤ハーモニカを用いた「鍵盤楽器能力格差是正」の試みについて経過報告をする。詳細は研究発表⑥で発表
- ・安武 秀
幼稚園や保育園教諭を養成する「こども学科」の学生の入学時の音楽力レベルは、学芸大学附属小学校同様にさまざまである。本学では鍵盤楽器経験の少ない学生に対し、タテ線譜の効果を試みてきた。ブラインドタッチなどタテ線譜メソッドの応用に注目。また、こども学科学生への鍵盤ハーモニカを用いたタテ線譜教材を応用することについて、園児への導入に可能性

5. タテ線譜メソッド講座以外からの感想・話題提供

- ・北川 暁子
普段、自分が取り組んでいる世界とは違うが、タテ線譜とはどのようなものかと思い参加
- ・粕淵 博子 (jet 会員 音楽療育)
タテ線譜メソッドというシステムがあり、いろいろと実践・研究されているということを知ったので、これから始めたい指導者・受講者に宣伝を希望
- ・中山 京子
音楽療育を実践している。今後、タテ線譜メソッドを応用した音楽のあり方を模索
- ・和智 正忠
音楽が脳の活性化に最適であることの医学的研究とそれに関連するリズム講座を実践中。音楽をするこ

とによる血流の変化や気分状態を調査

- ・井原 正史
初心者に適した鍵盤楽器の必要性があり開発中である。タテ線楽譜との共存も視野にいたれた研究の必要性を実感
- ・三枝 文夫
今までは演奏の視点からしか楽器を考えていなかった。初心者が譜面から音楽に入る手助けにタテ線譜はなりそう。使う人が理解し易い電子楽器設計図とタテ線楽譜との共通性・共存を研究
- ・伊藤 徹成 (和幸楽器)
楽器店は生徒減・楽器売上減の今、地域のコミュニティセンターになる必要がある。音楽需要創造として位置づけられるタテ線譜メソッドを使い教室展開をして行きたいと願う。*ビデオ参加
- ・森 春潮
以前、昭和音大生涯教育講座のおさらい会を聞かせていただいたことがある。楽器業界に特化した出版会社としても興味
- ・黄 笑天
中国の高年齢化に伴う生活の変化により、老人大学が盛んになってきた。教える側も、定年生活者のボランティアが多く、受講料が比較的廉価であるため参加者が増えている。シニアのコミュニケーションに、タテ線譜システムの活用は有効であり必要性が高いと認識
- ・小澤 真弓 (NPO 法人歌のボランティア主宰)
老人ホームを訪問すると、歌を歌うことの重要性を感じる。シニア講座でタテ線譜を使用したことがあるので、今後、機会を見つけて実践予定
- ・嵯峨山 茂樹
ピアノ初心者を対象とした自動伴奏システム(ユリディス)の意味については上記、齋藤 康之氏(木更津高専)の映像についてコメントした通り、タテ線譜との組合せに因る新メソッドが出来ることに期待。ピアノ初心者を対象としたユリディスの意味については上記、齋藤 康之氏(木更津高専)の映像についてコメントした通り、タテ線譜との組合せに因る新メソッドが出来ることに期待を寄せている。
- ・粕淵 博子
タテ線譜メソッドというシステムがあり、いろいろと実践・研究されているということを知ったので、これから始めたい指導者・受講者に宣伝して行きたい。
- 7. まとめ(和智アドバイザー)
「音楽」は人間にとって「ご飯」と同じように必要なものだ、という考え方が始めている。遺伝子的に〈音楽をしていた人達が生き残って来た〉という議論がまじめに成されている今日、テクノロジー、心理学を含めて音楽文化が融合して楽しめる環境を作ることが社会的に有意義である。その観点からすると、本日のアイディアは繋がっており、力強くこういった活動が広がっているのではないだろうか。いろいろな立場を超えて目指しているものが収束している。こういう場を設ける事は必要で、意義がある。